

第36回卒業証書授与式

3月15日(土)に卒業証書授与式が行われました。卒業生のみなさんは、担任に呼名された後に「はい」と大きな声で返事をしていた、その短いやり取りから担任の先生との繋がりを感しました。学校長式辞、野口 弘教育長の祝辞、相羽 大輔 PTA 会長の祝辞に続いて、送辞・答辞がありました。送辞も答辞も涙なく聞くことが難しいものでした。在校生代表の長林果歩さんの送辞からはお世話になった先輩方への思いが伝わってきて、3年生との絆を感じました。卒業生代表の高野真衣さんの答辞は、後輩たちを応援する気持ち、先生方への感謝の気持ち、ずっと育ててくれている保護者への感謝の気持ちなど熱い思いが込められており、会場にいた人達の心を熱くさせました。最後に3年生による「友 ～旅立ちの時～」を聞いた時は、3年生の歌が終わらないで欲しいと思う程でした。式が終わろうとする時、全校合唱「旅立ちの日に」がありました。1・2年生はこれまでお世話になった卒業生の背中を見ながら精一杯後ろから声を送り、卒業生は後輩・保護者の皆様・お世話になった方々・先生たちへとそれぞれの思いを込めた歌声を出し、それらの声が合わさって素晴らしい歌声が体育館に響き渡っていました。この一年のみなさんの成長を感じることができた、最高の卒業証書授与式となりました。卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。1・2年生は、卒業生の姿からたくさんのお話を学ぶことができました。きっと来年度も素敵な大徳中学校にしていくことができると思います。卒業生の皆さんがそれぞれの場所で、自己



実現できるよう祈っています。卒業生保護者の皆様、これまで大徳中学校の教育活動にご理解・ご協力いただき本当にありがとうございました。卒業生175名の新たな旅立ちに際し、未来が多くの喜びと幸運に満たされることを心より願っております。

【今後の予定】

- 3/25(火) 学年末休業開始 ～4/6(日)
- 3/28(金) 離任式 9:00～
- 4/ 4(金) 全校登校日、新学級発表、入学式準備
新入生学級発表 11:00
- 4/ 7(月) 新任式・一学期始業式
入学式 13:30(受付 12:30)



校長の独り言 part6

中学校の教員として勤務できた三十六年間、若いときは退職まで気が遠くなるほど長い期間に思いましたが、その時が来てみれば先輩がよく言う「あっという間」でした。

白山市在住の私が初めて講師として勤務したのが、西南部中学校。その後高岡中、西南部中、清泉中とずっと金沢市の学校でお世話になり、その後金沢市教育委員会へ異動し、退職届を出すこと3回。最後の学校になったのが大徳中学校です。



生徒に授業の合間によく話してきたのが、「なぜ教師になったか」でした。高校に進学後、当時の高校というよりは、全体的に学校・学生は「荒れ(不良)」の生徒が多かったように思います。高校入学後、旧松任から片道10kmを自転車で学校まで通い、部活動をしてまた10kmを帰る。週末には松任にはないものが金沢には多く、先輩や同級生と遊んでばかりの生活を続けていましたら、全く勉強にはついていけず、点数も全くとれない状態に。先生方も呆れかえり、嫌みばかりを浴びせられ、終いには呼名も飛ばされるようになり、私は完全に教師に不信感をいだき、完全無視状態の生徒になっていました。そんな私にたまに声をかけてくれる先生は保健体育の先生達でした。(部活だけは真剣にやっていたからか)

そんな折り、先生なんてと思いながらも「もっと真剣に向きあってくれる教師」という存在になれないかということを考えるようになりました。勉強不足と遊び癖というものは簡単には直らないもので、結局、大学に入学できたのは二十歳の時でした。教壇でこんな話をしていると生徒の目は真剣で私の数学の授業よりも真剣に聞いてくれた気がします。笑



また、生徒指導上の保護者対応も若いときは緊張もしましたが、農家の田舎育ちでもあり、近所の年寄りと毎日挨拶を交わす習慣のあった私には、話すことにあまり抵抗感がなかったように思いますし、その当時の保護者の方々も若い教師でもリスペクトしてくれていたように思います。多くの生徒・保護者に「ケンさん」と呼ばれ、声をかけてくれました。保護者の友達の友達まで知り合いになったことも多々ありました。地域の方々にも公私共々お世話になりました。11年間の金沢市教育委員会の勤務の折にも、教育とは関係の無い部署の方々にも友達が多くでき、学校では知り合うことのなかった方々との交流も私の貴重な経験・財産でしたし、何か困ったときに学校を助けてくれる大切な存在でもありました。生徒・保護者はもちろんですが、それだけに限らず、ただの不良みたいな私に多くの方々が関わりを持ってくれたおかげで今の自分があると痛感しております。

今の若い先生方は有能です。ですが、生徒も保護者も考え方が多様化し、対応が一辺倒では難しい時代になってきています。そんな中ですが、思いは必ず通じると信じて諦めずに自分の生き様を語り続けて生徒の育成に努めていただきたい。それが私の教育への願いです。保護者の皆様には、学校・教師を信じていただき、共に子供を正しい方向へと導いていくためのご協力をお願いします。両者がタッグを組めば、間違いなく子供は正しい方向へと導けるはずです。



最後になりましたが、こんな私を育ててくださいました、諸先輩方・同僚の皆さん、生徒・保護者・地域の皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。